

グローバルビレッジを撮る・観る・創る —ドキュメンタリー映画制作を通して見つめる京のムスリムと多文化共生

1 目的・概要

日本には、昨今のテロ報道などによりムスリムに対してマイナスイメージや固定観念を持っている人が少なくないのが現状です。こうした現状は、今後オリンピックや外国人受入れ拡大に伴い、ムスリムを初めとした外国人が増えることが予想される日本において問題であるという意識に基づき、「ムスリムを主人公としたドキュメンタリー映画制作・上映を通して、どうしたら文化や価値観が異なる人と共に生きる、多文化共生社会を実現できるのかについて考える場を創る」ことを目的として活動してきました。

4つの班に分かれ、7月の同志社大学寒梅館クロウバーホールでのドキュメンタリー映画上映会に向けて、それぞれ異なる主人公、視点から撮影・映像制作をしてきました。上映会では、制作した4つの映画を流した後、観客を巻き込んだディスカッションを通して多文化共生社会のために必要なことは何かを考えました。



Annual Schedule

- | | | |
|-------|----|---|
| 2019年 | 4月 | 役割分担、班決め、イスラームに関する講義、撮影基礎、Salman & sohel halal kitchen kyoto 取材 |
| | 5月 | 撮影実践、企画書発表、京都八幡モスク見学、同志社大学イフタールパーティーにて撮影 |
| | 6月 | 映像編集実践、ゲストスピーカー秦岳志様による講演・編集アドバイス、ポスター制作、広報 |
| | 7月 | 映像編集、作品仮上映会、ラジオ「難民ナウ！」出演
イスラーム×ドキュメンタリー映画上映会 |

2 成果達成度



私たちは、穆斯林を主人公としたドキュメンタリー映画を4つの視点から学生自らの手で制作することで、個人としての穆斯林を映し出し、制作した映画の上映会を通して、観客にそれまで遠い存在であった穆斯林を「共に生きる隣人」として意識を変えてもらうとともに、上映後のディスカッションを通して「多文化共生」のあり方について対話と理解を深める、グローバルビレッジを生み出す場をつくることを目的としていました。そのため、私たちの最終的なゴールである上映会に向けて取材・撮影・編集・広報活動を行いました。1つめの成果は、私たち自身の成長です。取材や撮影を通して直にイスラームの文化に触れ、主人公と日常性を通じて関係性を構築するうちに各々穆斯林へのイメージに変化が生じました。2つめの成果は、クオリティの高い映像をどの班も制作できたことです。編集で、撮った膨大な量の映像を最終的に10分～20分の映画にまとめあげ、観客からは「完成度が高かった」と高い評価をいただくことができました。3つめの成果は、広報です。私たちはより多くの

人に多文化共生について考えてもらうため、広報活動にも努めました。チラシやHP, Twitter を通じて多くの人に活動を広めたとともに、ラジオ『難民ナウ!』や京都新聞・毎日新聞にも私たちの活動が取り上げられました。その結果、上映会当日には定員50名を超える人が映画を観に訪れてくださり、多くの人に多文化共生について考えてもらうきっかけを与えることが出来ました。4つめの成果は、上映会の観客に多文化共生に関して考えてもらうことができた事です。映画を上映した後、観客から作品に関して質問をもらい、それらを元にディスカッションをするという場を設けていました。そこでは、観客から絶えず質問がされ、とても盛り上がりました。上映後、実施したアンケートには、「知りもしないのに自分がイスラームのイメージを勝手に作り上げていたことに気づいた」「集団で捉えず、個人で捉えることの大切さに気づいた」「穆斯林が身近になった」「ネガティブなイメージがあったが友達になるのに宗教や国籍は関係ないのだとわかった」などと映画を通して観客が各々学びを得て、多文化共生について考えを深めてもらったことがわかりました。このように取材・撮影・編集・広報・上映会全ての過程が私たちの目的達成につながったと感じています。



3 プロジェクトを通じて

私たちはこのプロジェクトを通じて、主に2つの事を学びました。1つめに、自分とは異なる他者を集団としてではなく個人単位で捉え、固定観念をもたないということです。私たちは初め、ムスリム＝「厳しい状況におかれている」や「怖そう」などといった固定観念をもって、彼らを集団化して捉えていました。しかし、実際撮影を通して彼らと接すると、気さくで明るい人や自分達の生活を精一杯楽しんでいる人など、みんなそれぞれ個性豊かな人達ばかりで、一口にムスリムと言ってもその中には様々な人がいました。現代においてよく「ムスリム＝テロ組織」のような言説を耳にしますが、ムスリム全員がテロ組織に属している訳ではないのです。文化も価値観も違う国で生まれたけれど、本質的には私たちと変わらない人間であり、全てのムスリムが、私たちが元は持っていたイメージに必ずしも当てはまるとは限りません。自分とは異なる他者のことを知らない、接してないうちから集団として固定観念で捉えることが、いかに誤ったイメージを作り出してしまうのかを撮影や取材を通じて各々が痛感したと思います。2つめに、メディア・リテラシーの大切さです。上記で示したとおり、イメージと現実には大きなギャップがありました。こうした現状を踏まえ、そもそも彼らに対するこうしたイメージがどうしてついてしまったのかを考えた際、これまで私たちが何気なくみてきたニュースや番組などの影響を強く受けているということがわかりました。実際はメディアで放送されていることが本当とは限らないのが現実です。無意識にメディアによって作られていた自分の考えやイメージは本当に正しいのか、何気なく観ているメディアの言っていることは本当なのかと客観視・疑問視する、つまりメディア・リテラシーを身につけることがいかに大切かを学ぶことができました。このプロジェクトから学んだ上記の2つのことを、これからの社会で活かしていきたいと思います。



編集後記

このプロジェクト科目は半年のみの開講ということで、限られた時間で映像の撮影・編集を行わねばならなかったとともに、「グローバルビレッジとは何か」などといった正解のない問題を考える必要があり、各自非常に大変な思いをして取り組んできました。時には意見がぶつかることもありましたが、「本当のムスリムを知ってほしい!」という思いで、上映会にむけて全力で準備した過程を経て、皆がひとつになることが出来たと共に、各々成長や学びを得ることが出来たのではないかと思います。最後に、このプロジェクトに関わった全ての方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

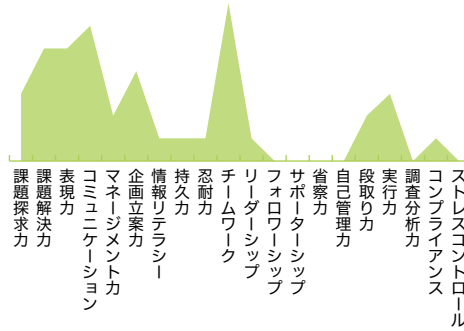
プロジェクトメンバー

久吉 桂史(神4) 大谷 真由(文3) 岩瀬 真末(文2) 中尾 一貴(社会3) 松田 顕吾(社会2) 池田 大介(法2)
奥村 勤仁(経済2) 山田 茉琳(経済2) 岡本 詩希(商3) 酒井 理紗(グローバル地域文化3)
西田 有佐(グローバル地域文化3) 小笠原 瑞希(グローバル地域文化3) 中島 雪乃(グローバル地域文化2)
高瀬 悠多(グローバル地域文化2)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

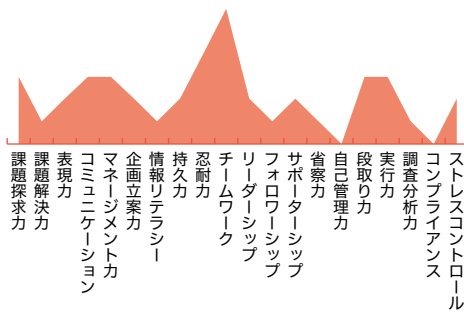
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

